

「キャリア教育」に関するアンケート調査 集計結果

－県内公立小学校330校（政令市を除く）－

人づくり支援課 進路指導支援班

調査の概要

調査の目的

キャリア教育に関する各小学校の実施状況及び担当者の意識を調査し、県総合教育センターにおけるキャリア教育研究の基礎資料とする。

調査の時期

平成21年7月中旬から8月上旬

調査対象者

政令市を除くすべての公立小学校のキャリア教育担当者（進路指導担当）

調査内容

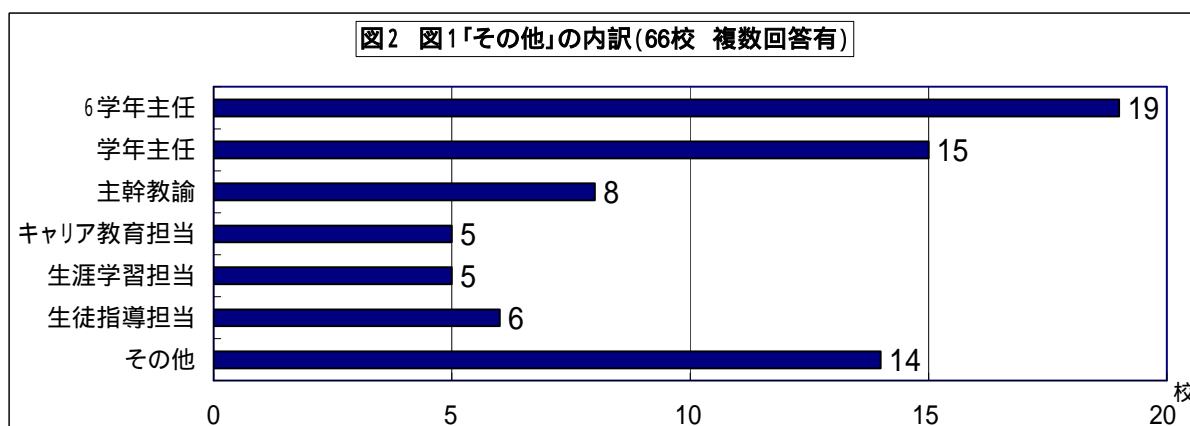
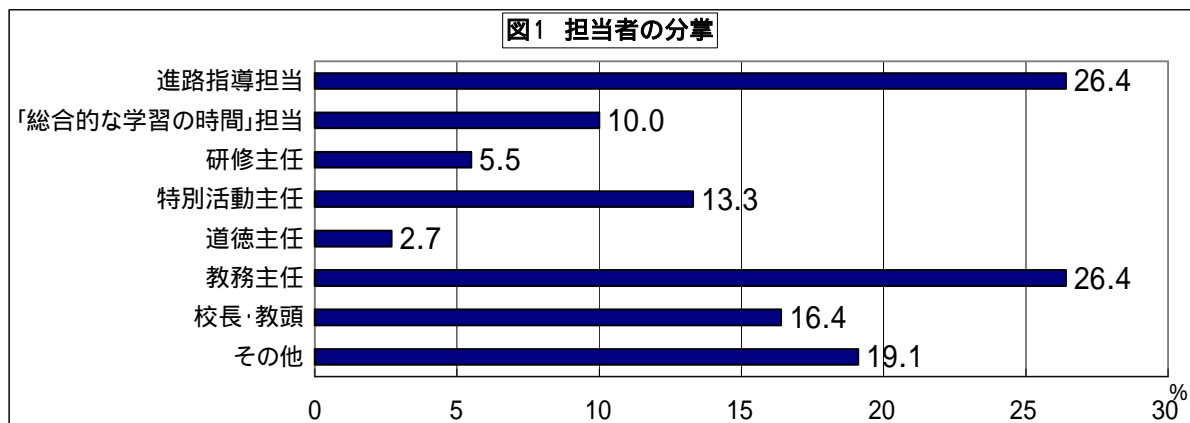
担当者の分掌と担当学年

- 1 自校におけるキャリア教育の実践状況
- 2 自校におけるキャリア教育計画の作成状況
- 3 自校とPTA・地域・NPO・企業等と連携した取組状況
- 4 自校におけるキャリア教育の研修状況
- 5 自校教員におけるキャリア教育資料(パンフレット等)の活用状況
- 6 自校における「学習プログラムの枠組み(例)」の活用状況
- 7 担当者の研修経験
- 8 担当者のキャリア教育資料の活用状況
- 9 担当者の4領域8能力についての意識
- 10 担当者のキャリア教育のイメージ
- 11 担当者の小学校におけるキャリア教育の必要性の意識
- 12 担当者の自校におけるキャリア教育推進上の課題

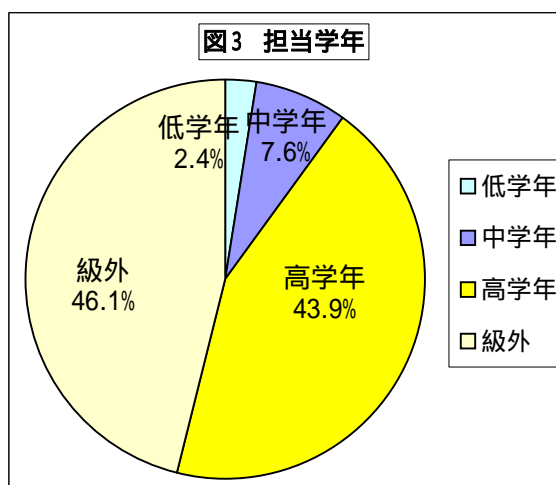
「キャリア教育」に関するアンケート集計結果

調査対象者は政令市を除く県内公立小学校(330校)の「キャリア教育担当者」であるが、明確に「キャリア教育担当」と分掌で決まっている学校は5校である。5校以外の学校については、記載者を「キャリア教育担当者」として集計・分析を行った。

あなた(記載者)の分掌と担当学年をお答えください。(兼ねている場合は複数回答)

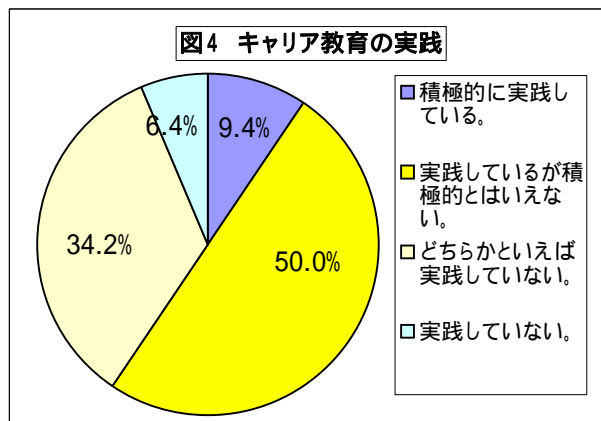


- ・キャリア教育担当者の分掌は、「進路指導担当」「教務主任」がそれぞれ約4分の1を占める。
- ・「教務主任」と「校長・教頭」を合わせると40%を超える。「主幹教諭」も8名(2.4%)が担当者となっている。
- ・明確に、「キャリア教育担当」と分掌で決まっている学校は5校(1.5%)である。
- ・担当学年については、「高学年」担当が43.9%で、「その他」の内訳でも「6学年主任」が多い。小学校におけるキャリア教育は、高学年が中心になっている。



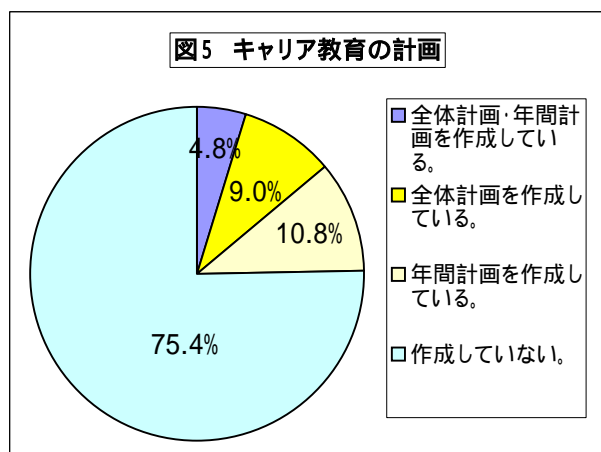
1 貴校は「キャリア教育」の視点を取り入れて教育活動を実践していますか。

- ・積極的に実践している学校は31校(9.4%)である。実践しているが積極的でない学校が165校(50.0%)、実践していない、どちらかといえば実践していない学校が合わせて134校(40.6%)である。
- ・積極的に実践している31校のうち、19校がキャリア教育の計画を作成している。また21校の担当者がキャリア教育の研修を受けた経験があり、校内研修等でキャリア教育を扱ったことがある学校は9校である。



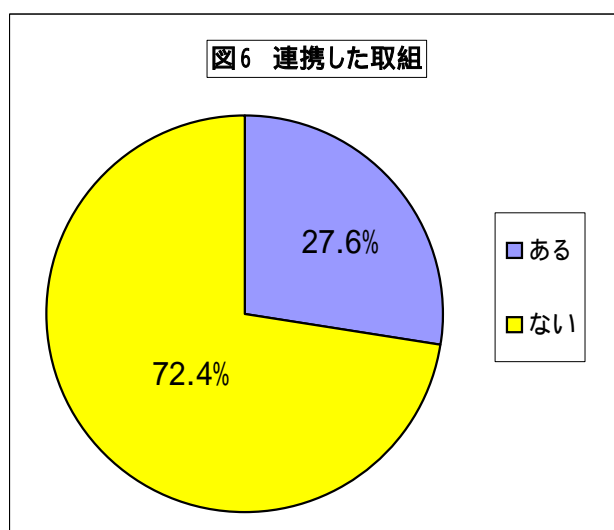
2 貴校は「キャリア教育」の計画を作成していますか。

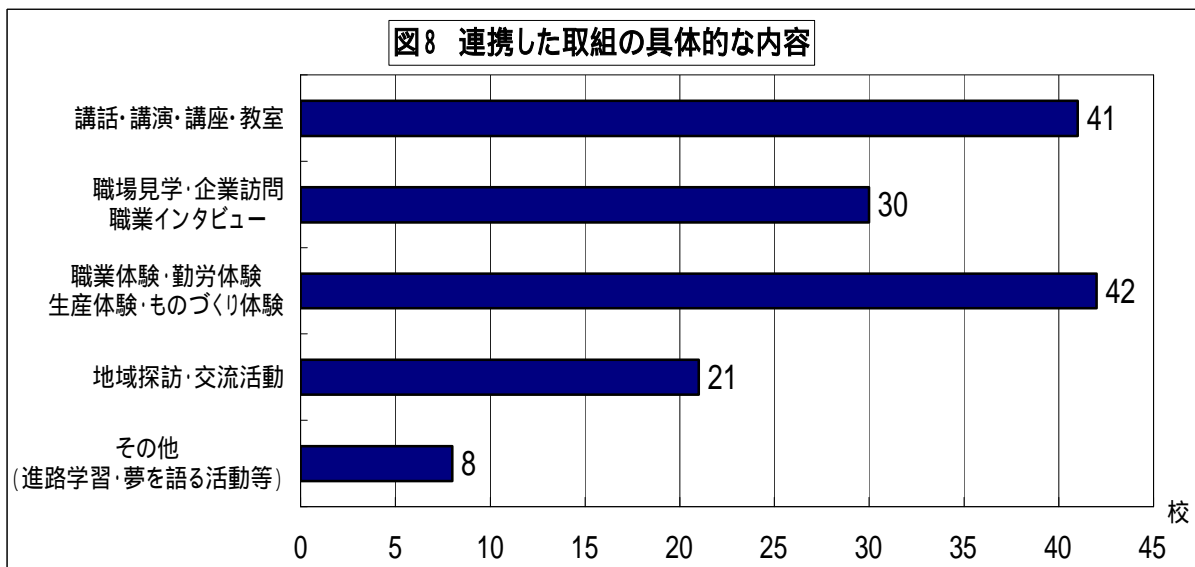
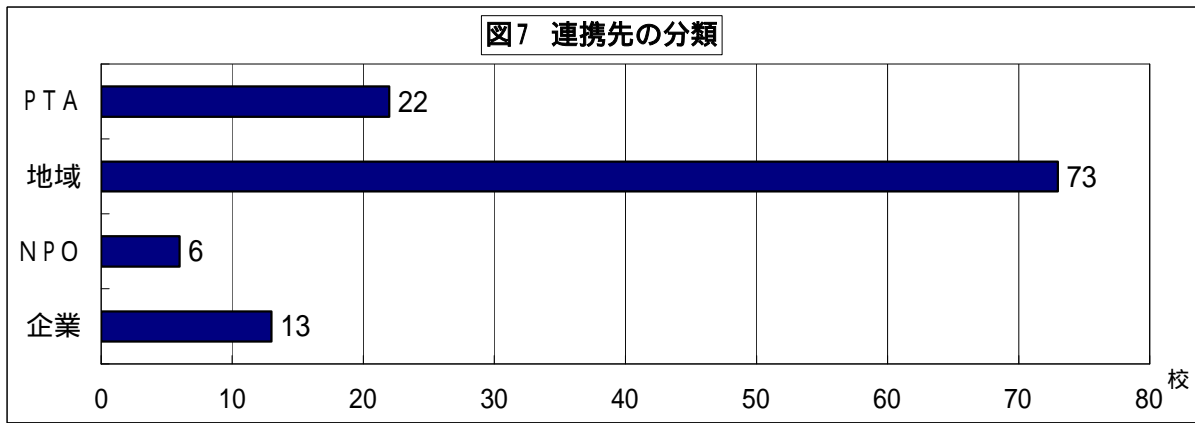
- ・全体計画・年間計画ともに作成している学校は16校(4.8%)である。ともに作成していない学校は251校(75.4%)で、多くの学校が、キャリア教育についての計画を作成していない。
- ・全体計画あるいは年間計画のみ作成している学校が、それぞれ約10%である。
- ・全体計画・年間計画ともに作成している16校においては、8校がキャリア教育を積極的に推進しており、7校が外部講師を招いたり、校内研修会でキャリア教育を扱っている。13校の担当者がキャリア教育の研修を受けた経験がある。



3 貴校はPTA・地域・NPO・企業等と連携した「キャリア教育」の取組がありますか。

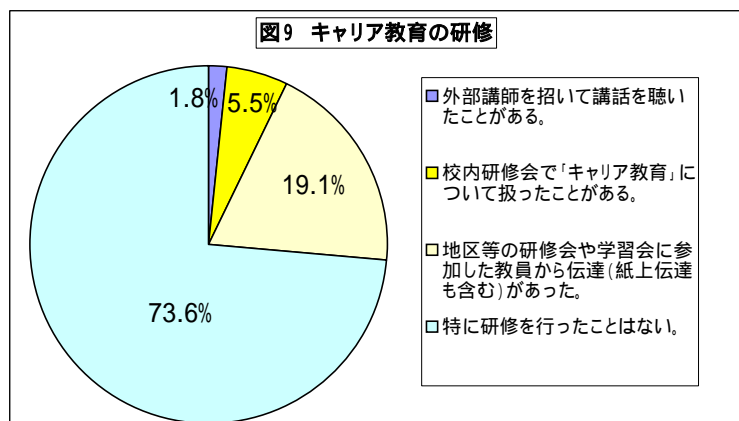
- ・「ある」と回答した学校は91校(27.6%)である。
- ・連携した取組を、PTA、地域、NPO、企業に分類すると地域との連携が圧倒的に多い。(図7)
- ・取組を内容ごとに分類すると、勤労や生産等の体験活動と講話・講演等が多い。また、職業見学や企業訪問等、直接「職業」の話を聞く取組をしている学校は30校である。(図8)



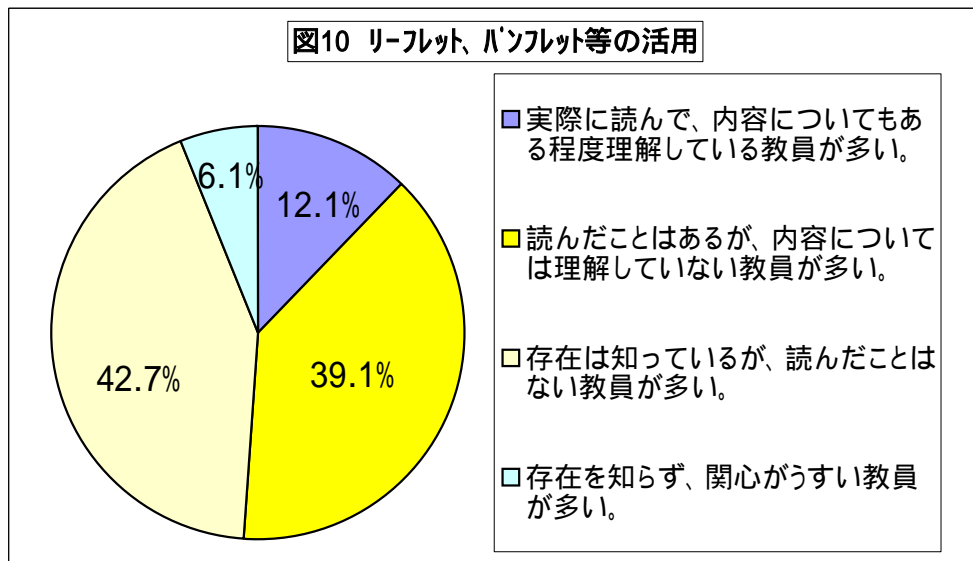


4 貴校は「キャリア教育」の研修を行ったことがありますか。

- ・校内研修で、キャリア教育について扱ったことがない学校は、243校(73.6%)である。また扱った学校においても63校(19.1%)は伝達等である。
- ・外部講師による講話や校内研修でキャリア教育を扱った24校(7.3%)においては、21校がキャリア教育を実践しており、9校が全体計画と年間計画の両方を作成している。また『学習プログラムの枠組み(例)』(質問6参照)も13校が活用している。

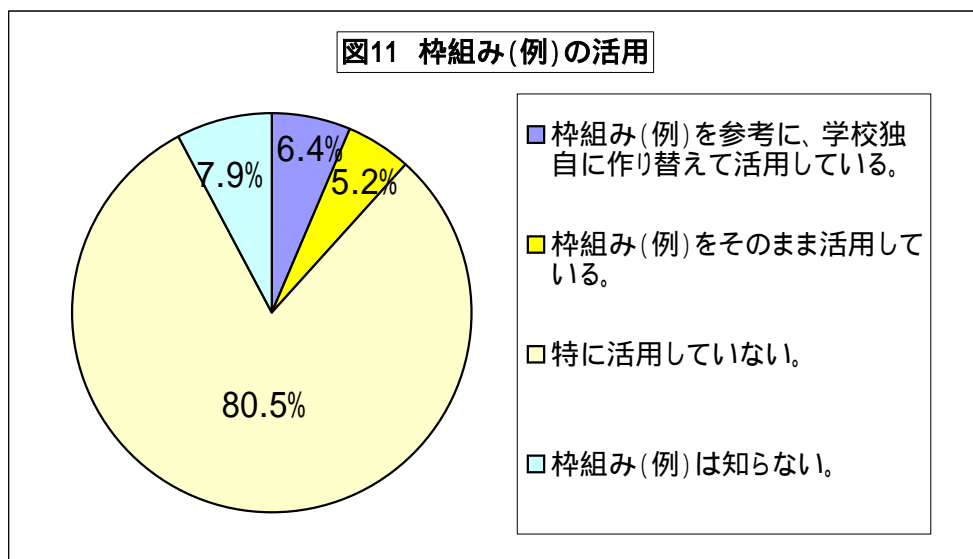


- 5 貴校の教員は「キャリア教育」に関するリーフレットやパンフレット、手引き等を読んでいると思いますか。



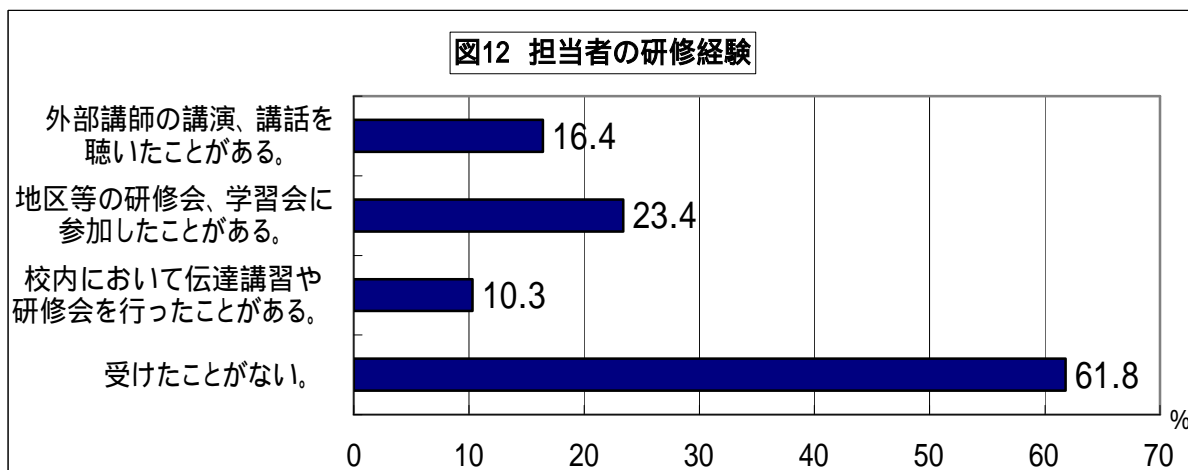
- ・担当者の48.8%が、自校の教員の多くが「キャリア教育」に関するリーフレットやパンフレットを読んだことがないと思っている。また、発行されているリーフレット等の内容を理解していない教員が多いと思っている担当者を含めると約90%になる。

- 6 貴校は、国立教育政策研究所が開発した「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」を活用していますか。



- ・『枠組み(例)』を独自に作り替えて活用している、そのまま活用している学校は合わせて38校(11.6%)である。それ以外の学校においては特に活用していない。
- ・『枠組み(例)』を学校独自に作り替えて活用している21校(6.4%)では、すべての学校がキャリア教育を実践しており、20校がキャリア教育の計画を作成している。

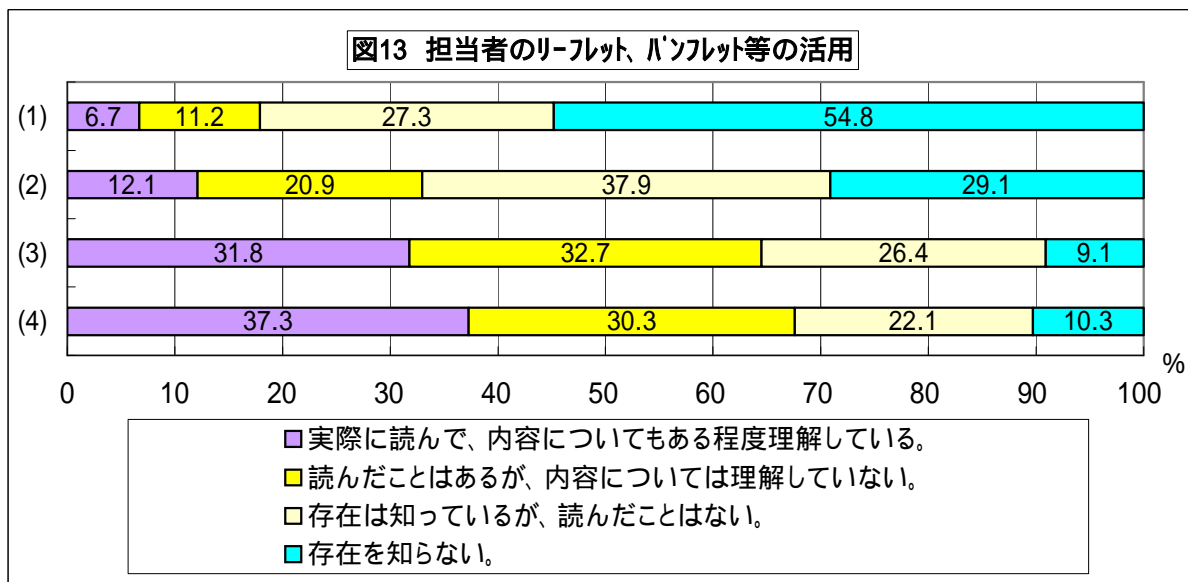
7 あなたは「キャリア教育」に関する研修を受けたことがありますか。(複数回答可)



・研修を受けたことがない担当者は61.8%である。

8 次の(1)～(2)の報告書等について、当てはまる記号を選んでください。

- (1)H16「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議 報告書」
- (2)H18「小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引き」
- (3)H20「静岡県のキャリア教育～一人一人が自ら幸せな人生を築くために～」(リーフレット)
- (4)H21「自分に気付き、未来を築くキャリア教育～小学校におけるキャリア教育推進のために～」(パンフレット)



- ・新しいものほど実際に読まれて、内容も理解されている。
- ・内容が多くて厚い報告書や手引きより、具体的でコンパクトなリーフレットやパンフレットの方が読まれている。
- ・(3)は教員に一人1部、(4)は各校に10部配布されている。昨年あるいは本年度に配布されたばかりであるが、内容を理解している担当者は40%を切り、その存在を知らない担当者が約10%いて、読んだことのない担当者も含めると3分の1に及ぶ。

9 国立教育政策研究所が開発した「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）」にキャリア教育を通して児童に育みたい4領域8能力が示されています。

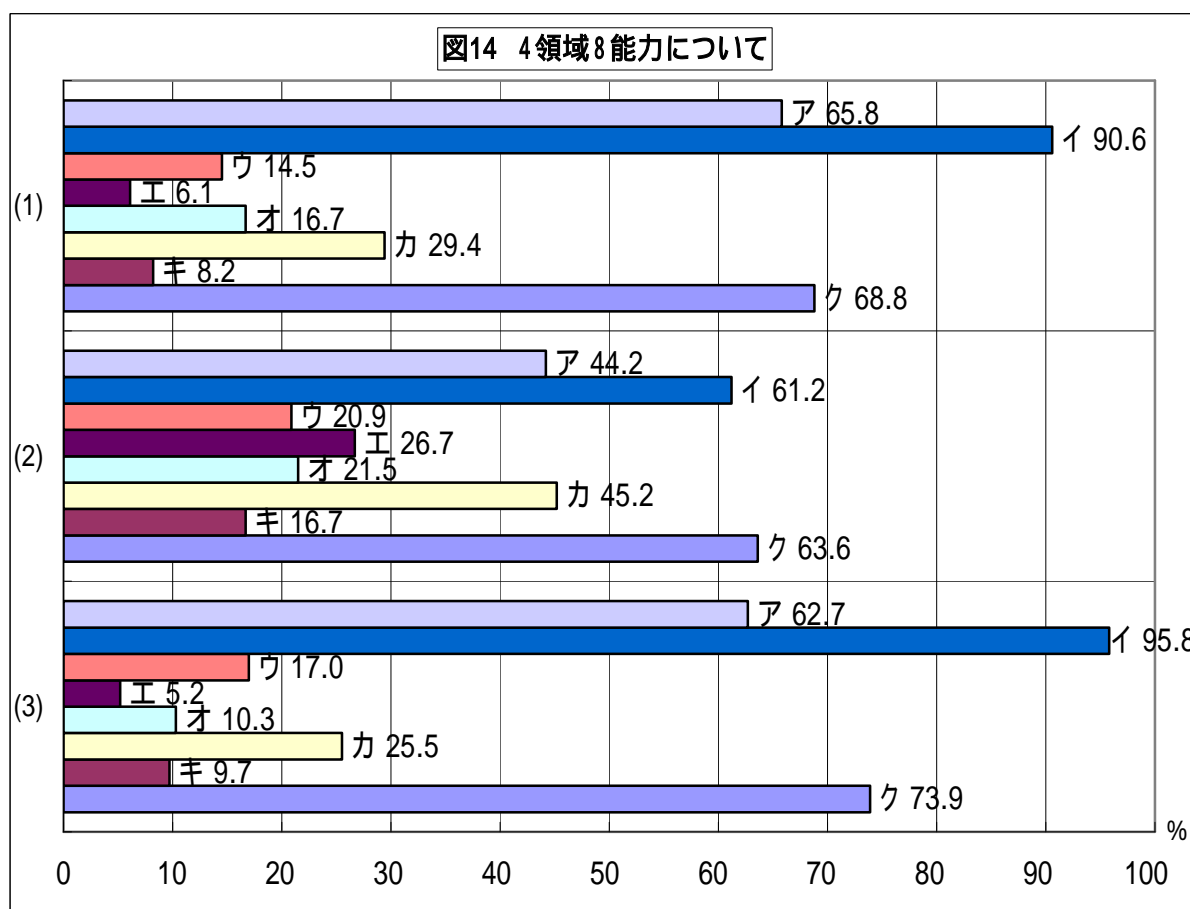
(1)～(3)についてあてはまる記号をそれぞれ3つずつ選んでください。

(1)自校の児童（担当学年）に、特に大切だと考える能力を3つお書きください。

(2)自校の児童（担当学年）に、特に不足していると考えられる能力を3つお書きください。

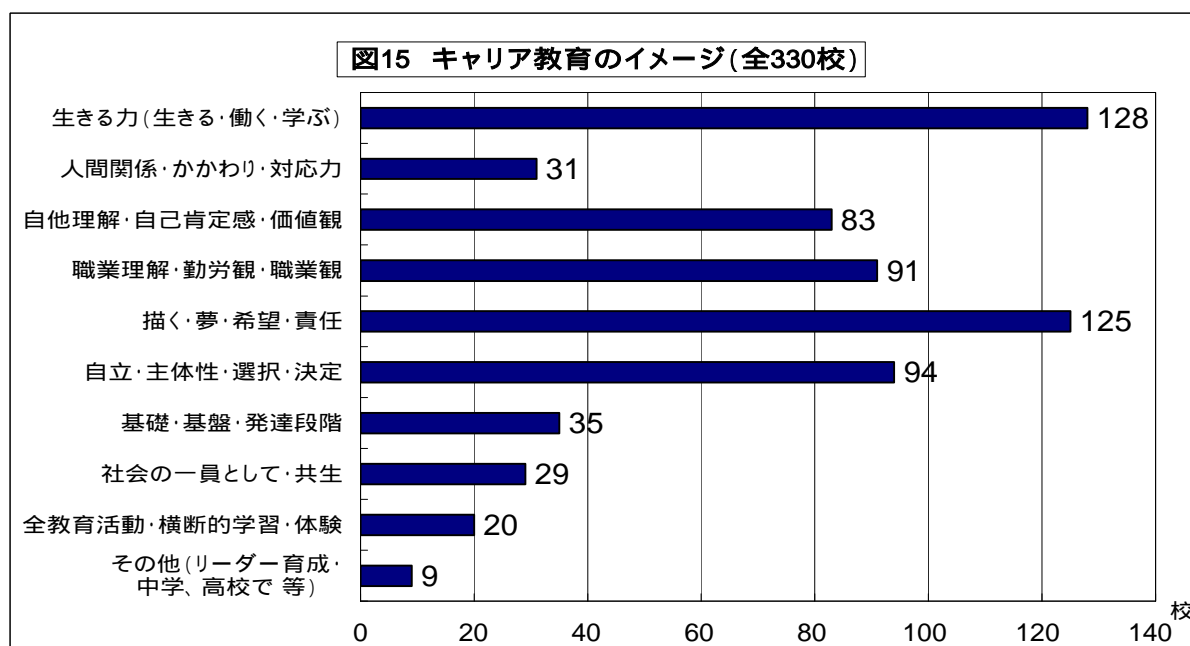
(3)日ごろの教育活動において、特に意識して指導している能力を3つお書きください。

ア 自他の理解能力	イ コミュニケーション能力	(人間関係形成能力)
ウ 情報収集・探索能力	エ 職業理解能力	(情報活用能力)
オ 役割把握・認識能力	カ 計画実行能力	(将来設計能力)
キ 選択能力	ク 課題解決能力	(意思決定能力)



- ・(1)について 4領域8能力のうち、特に大切だと考える能力はイ「コミュニケーション能力」であり、次いでク「課題解決能力」、ア「自他の理解能力」と続く。4領域においてベースとなるのは『人間関係形成能力』であると考えている担当者が多い。
- ・(2)について 自校の児童に特に不足していると考えられる能力は、ク「課題解決能力」が最も高い。また(1)・(3)と比較すると、エ「職業理解能力」の数値が高い。
- ・(3)について 特に意識して指導している能力の各項目の割合は、(1)の特に大切だと考える能力とほぼ一致している。

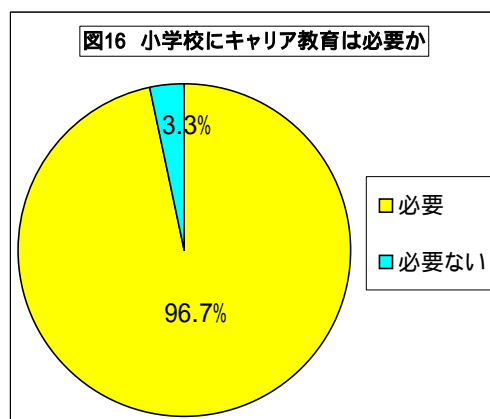
10 「キャリア教育」とはどのような教育だと思いますか。イメージをお答えください。



- ・キャリア教育のイメージを分類すると「生きる力」「描く・夢・希望・責任」の回答が多い。キャリア教育は生きる力を育む教育であり、『学習プログラムの枠組み(例)』で小学校段階におけるキャリア発達課題として挙げられている「夢や希望、憧れる自己イメージの獲得」と一致する。
- ・「社会的自立の基盤となる資質・能力・態度の育成」というキャリア教育が目指すものや、育成すべき能力の前提となる「自己肯定感」等の回答も多い。
- ・平成16年の『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書』の中で、キャリア教育の定義を「勤労観・職業観を育むための教育」としていることから「勤労観」や「職業観」という回答も多い。
- ・少数ではあるが、キャリア教育とは「リーダー育成」「中学校・高等学校で行うもの」という回答もある。

11 小学校に「キャリア教育」は必要だと思いますか。

小学校に「キャリア教育」は必要ないと回答した11校(3.3%)の担当者の理由を下記に示す。
現状では、時数的にも「キャリア教育」の学習を設定する余裕がないので、関連する学習の中で指導していくしかないと感じる。
中学生ぐらいから始めることが妥当だと思う。
低学年では、まだ職業観を意識させることは無理ではないか。



キャリア教育が必要ないということではないが、小学校に求められていることが多すぎる。求められていることはすべて無駄なことではないだろうが、すべてを行うことは無理がある。そう考えると「キャリア教育」は無理に行う必要はないと考える。

これまで、各教科・道徳・特別活動等、すべての教育活動を通して、この主旨を基本とした学びを進めてきているから。また、総合的な学習の時間、外国語教育、情報教育、読書指導等、次々と新しく導入されているために、キャリア教育を教育課程の中に入れる余地がない。

自分は、10に回答した（将来、日本という国を引っ張っていく人物を育てるための教育）ように思っているのでもしそうだとすると小学生段階では必要ないと思う。

自分を見つめ、自分を大切に、将来を見つめる教育は大切だが、小学校では「キャリア教育」と位置付けなくてもできるのではないか。

小学校におけるすべての教育活動がキャリア教育の基礎を培う活動であるので特別に位置付ける必要はないと思う。

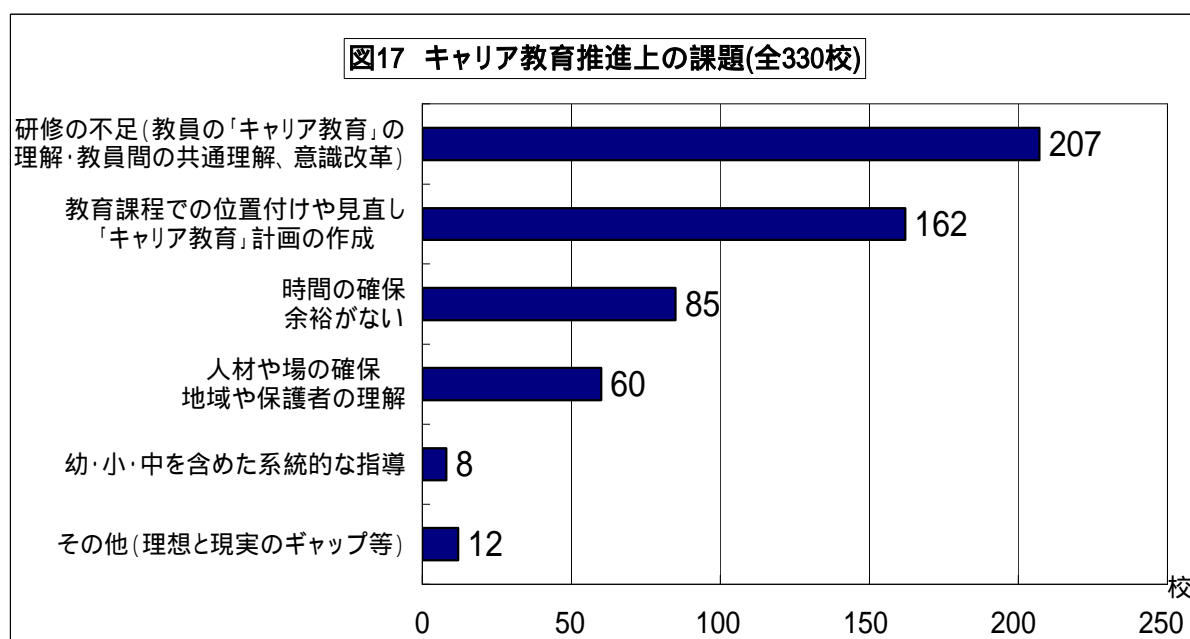
中学校でしっかり時間をかけてキャリア教育を行っているのでも小学校では、時間の確保が難しい。

必要とは思わない。キャリア教育は、いわば総合的な学習の時間のようなもので、あらゆる学習の集約されたものであるように思う。とりたてて「キャリア教育」と言わずに、普段の学習の中でのある部分が「キャリア教育」とかかわっているという認識があればよいと思う。

教科・領域の中で、間接的に現在も取り入れられている内容だと考える。改めて、具体的に立ち上げる必要性がない。

- ・ 319校(96.7%)の担当者が小学校においてもキャリア教育は必要だと考えている。
- ・ 小学校にキャリア教育は必要ないと考えている担当者は3.3%の11校である。
- ・ 必要ないとする理由については、現在行われている教育活動そのものがキャリア教育であり、とりたてて「キャリア教育」と位置付けなくてもよいという意見である。
- ・ 必要ないとする理由については、「キャリア教育」は新しい教育活動ではない、発達段階に応じて行われるべきもの、勤労観・職業観を養うことだけがキャリア教育ではないという「キャリア教育」に関する理解が深まっていないと思われる。

12 貴校の「キャリア教育」を推進する上で課題があればお書きください。



- ・『キャリア教育推進上の課題』を分類すると、約3分の2の担当者が、「キャリア教育に関する研修の不足」を挙げている。
- ・「教育課程での位置付けや見直し・計画の作成」を挙げる担当者は約半数である。
- ・研修を行う時間も含めて「時間の確保」や「余裕がない」と多忙を理由にあげる担当者は約4分の1である。
- ・実際にキャリア教育を行う上での「人材や学習を取り巻く地域や保護者の理解」を含む環境面を課題に挙げる担当者は約2割である。

まとめ

キャリア教育の推進については、平成11年の中央教育審議会答申からその重要性が提唱されてきた。平成20年に策定された教育振興基本計画においても、子どもたちの勤労観や社会性を養い、将来の職業や生き方についての自覚に資するよう、小学校段階からキャリア教育を推進することがうたわれている。また、「キャリア教育の基盤は小学校で」とも指摘されている。

そこで進路指導支援班では、キャリア教育研究の基礎資料とするために、県内の小学校における「キャリア教育」の実施状況及び担当者の意識を調査するためのアンケートを実施した。そのアンケート結果から、以下のような実施状況や担当者の意識の傾向がみられた。

- 1 ほとんどの小学校において「キャリア教育は必要である」と認識されている。
- 2 「キャリア教育」は「生きる力」を育む教育であり、社会的自立の基盤となる資質・能力・態度の育成を目指すものである。小学校段階におけるキャリア発達課題として「夢や希望、憧れる自己イメージの獲得」が挙げられているが、担当者の意識からもそれらが感じられる。
- 3 「キャリア教育」は、学校の教育活動すべてにかかわるものであり、教育改革の方向性を示す理念の一つであるが、「職業」にかかわる教育活動のみが「キャリア教育」と認識している担当者もいる。
- 4 「キャリア教育」に関する研修やパンフレット・リーフレット等の活用が十分行われていないのが現状である。
- 5 1、2にみられるように、「キャリア教育は必要である」と認識されているにもかかわらず、時間的・精神的な余裕やゆとりがないこと、新しい教育活動に取り組みなければならないと考えられていることが、「キャリア教育」に取り組むことへの障害になっていると思われる。

「キャリア教育」は決して新しい教育活動ではなく、イベント的なものでもない。「キャリア教育」は、子どもたちの「生きる力」を育む教育であり、給食活動や清掃活動、教科学習や生徒指導など、すべての教育活動を通して行われるものである。「キャリア教育」の視点を取り入れて教育活動を見直し、改善していくことが「キャリア教育」推進の第一歩になるのではないだろうか。

進路指導支援班では、このアンケート結果を基礎資料とし、今後さらに「キャリア教育」の研究に取り組んでいきたい。